

なるほど健康講座

問い合わせ 健康推進課 ☎②1610

—胃内視鏡検診—



たに内科クリニック
谷 洋 先生

胃がん検診の意義

胃がんは病状がかなり進行するまで自覚症状はあまりありません。症状が出てから病院に行き、手遅れになってしまうことがあります。以前に比べて胃がんで亡くなる人は減っていますが、胃がんは今でも罹患率の高いがんの一つです。しかし、胃がんでの死亡率が低くなったのは、早期発見が増え、胃がんになっても助かる人が増えてきたからです。

胃内視鏡検診の開始

6月から、市のがん検診でも胃内視鏡検診（胃カメラ）が始まりました。今までの胃がん検診では、バリウム検査が行われてきました。胃カメラはバリウム検査と比べてどのようなメリットがあるのでしょうか。

胃カメラのメリット

胃カメラのメリットは、何と比べてもバリウムより早期胃がんの発見率が高いことです。胃カメ

ラでは、わずかな高低差や色の違いから胃がんを発見することができます。バリウム検査では色の違いは分かりません。つまり、バリウム検査で胃がんと診断される胃がんは、既に進行しているがんが多いのです。また、胃カメラではレントゲン被爆やバリウム飲用に伴う合併症もありません。

胃カメラのデメリット

胃カメラは嘔吐反射など苦痛がある場合がありますが、検査は5〜10分程度です。最近では細い胃カメラで鼻から入れるタイプもあり、苦痛が軽減されました。

検査の精度

胃カメラを行う医師は、内視鏡の専門医であることなど、一定の条件をクリアした医師のみです。また、廿日市市では撮影した写真は読影委員会にセキュリティを確保して送られ、再度チェックを受ける仕組みになっています。皆さんが安心して検診を受けられるよう努めていますので、これからは、ぜひ胃カメラでの胃がん検診を受けてください。

佐伯地区医師会（ホームページ <http://saikima.jp/>）

佐伯地区医師会は、廿日市市・佐伯区湯来町・江田島市（能美町・沖美町・大柿町）で開業または勤務している医師で構成されています。日本医師会や広島県医師会と協力しながら、地域に密着した医師会として約15万人の地域住民の健康を守るため、学校医、産業医、健診、救急医療、在宅医療などさまざまな仕事をしています。